

東京言語研究所

集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学の研究者の方々ならびに言語学に興味をお持ちの方々を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開設しております。〈集中講義〉は、多様な研究領域に関して、より多くの方々の受講が可能な条件を勘案し企画しております。ぜひご参加ください。

〈演題〉 言語類型論の最新展開

—古典的類型論から部分類型論、さらに認知類型論へ—

〈講師〉 堀江 薫 氏 [名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻教授]

〈日時〉 2013年 3月 9日(土) 13:00~18:20 (90分講義×3コマ)
10日(日) 10:30~16:20 (90分講義×3コマ)

〈会場〉 東京言語研究所 (新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル13階)

〈参加費〉 一般 12,000 円

学生・大学院生・2012 年度理論言語学講座受講生 9,000 円

〈申込み〉 ホームページ申込みフォームまたは FAX にて下記をご連絡下さい。(定数:50名)

- ①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦ E メールアドレス ⑧区分 (2012 年度理論言語学講座受講生・一般・学生)
- ⑨所属区分 (大学生・大学院生・教員・会社員・その他)

講師紹介: 1959 年生まれ。現在、名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻教授。専門は言語類型論, 認知・機能言語学, 日韓対照言語学。論文・著書に“The Interactional Origin of Nominal Predicate Structure in Japanese: A Comparative and Historical Pragmatic Perspective.” (*Journal of Pragmatics*, 2012 年),『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ』(研究社, 2009 年, 共著), *Complementation: Cognitive and Functional Perspectives*. (John Benjamins, 2000 年, 編著)などがある。

○ 問合せ先

公益財団法人ラポ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420 FAX:03-5324-3427

E-mail:info@tokyo-gengo.gr.jp ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

講義 概要

言語類型論 (linguistic typology) は、世界の言語を構造的特徴に基づいて分類し、言語間の共通性・相違点に関して一般化、説明を行う学問分野です。言語類型論は、言語の普遍性と多様性に関して数多くの重要な経験的データを提供し、機能主義的言語学、生成文法を含む形式主義的言語学の双方に多くのインパクトを与えてきました (Newmeyer 2005)。

古典的言語類型論は、19世紀ドイツにおいてフンボルト、シュレーゲルらによって提唱され、言語の構造的特徴、特に形態論的特徴に基づいて「屈折語」「膠着語」「孤立語」といった、現在でも広く用いられている言語の「全体的類型」が提案されました。20世紀、言語類型論の研究の中心は北米に移り、J. グリーンバーグらによって「語順」(Greenberg 1966)「格標示」「関係節」といった言語の「部分的特徴」に基づいて世界の言語を分類する「部分類型論」が志向されました。このパラダイムシフトによって、世界の言語の構造的特徴に見られる普遍的傾向と言語間のバリエーションの両面がより正確に捉えられるようになりました。グリーンバーグの提唱した部分類型論は機能主義的言語学と特に密接に連携して発展し、機能類型論(functional typology)とも呼ばれます

2000年以降言語類型論は「世界言語構造地図(the World Atlas of Language Structures)」に代表されるデータベースの拡充・進化を見せ、認知言語学、社会言語学、認知神経科学と連携し「認知類型論(Cognitive Typology)」(Croft 1991, 堀江・パルデシ 2009)、「社会言語類型論 (Trudgill 2011)」 「神経類型論(Neurotypology)的研究」(Bornkessel and Schlesewsky 2009)」といった新たな融合的研究領域を発展させています。また、最近では、語順類型論の成果を計算言語学的観点から再検討し、語順の普遍的傾向に関して系統論的説明と機能論的説明の優劣を論じた Dunn et al. (2011)が科学雑誌 Nature に掲載され衆目を集めています。

本講義では、言語類型論のこれまでの歴史的発展と主要な研究成果の意義を今日的観点から再検討し、以下の (I) ~ (V) に示すような研究課題を取り上げます。: (I) 言語普遍性と多様性の研究によって言語類型論がどのような貢献をなしてきたか、(II) 言語類型論は対照言語学とどのような違いがあり、どのような接点があるのか、(III) 「認知類型論」という類型論と認知言語学の融合的研究領域はどのような分野であり、どのような研究成果が上がっているのか、(IV) 認知類型論は日本語学研究にどのような貢献をなしているのか、(V) さらに、言語類型論は社会言語学、神経言語学、応用言語学といった分野と連携してどのような新たな研究課題に取り組みつつあるのか。

参考 文献

一般的な類型論の入門書として (I) のいずれか、認知類型論の概説書として (II) をお勧めします。

(I) リンゼー・J・ウェイリー『言語類型論入門 –言語の普遍性と多様性–』(2006年, 岩波書店)

バーナード・コムリー『言語類型論と言語普遍性』(1992年, ひつじ書房)

(II) 堀江薫, パルデシ・プラシャント『言語のタイポロジー –認知類型論のアプローチ』

(2009年, 研究社)

時間 割

※ 変更の可能性がります

- 1 限 言語類型論の歴史的展開：全体類型論から部分類型論へ
- 2 限 言語類型論の主要な成果と応用：語順と関係節の類型論的研究を中心に
- 3 限 対照言語学と言語類型論の接点：比較類型論の観点からの日韓対照を中心に
- 4 限 機能類型論から認知類型論へ：構造的類型から「発想」の類型へ
- 5 限 認知類型論の研究成果：複文の認知類型論的研究と日本語学への貢献
- 6 限 言語類型論の多様な展開：社会言語学的類型論・神経類型論・応用認知類型論

9日(土)

13:00 開講式
13:10 講義—1
14:40 講義—1終了 休憩
15:00 講義—2
16:30 講義—2終了 休憩
16:50 講義—3
18:20 講義—3終了

10日(日)

10:30 講義—4
12:00 講義—4終了 休憩 昼食
13:00 講義—5
14:30 講義—5終了 休憩
14:50 講義—6
16:20 講義—6終了